



くじら組だより

令和7年8月30日

天沼保育園

くじら組



今年の夏も楽しいことをたくさん経験してとても成長したくじら組の子どもたち。段々と頼もしい姿が増えてきました。今回は、今年度大切にしている“自分たちで考えたり決めたりすること”に関して、印象的な姿があったので、エピソードをお知らせします。



【話し合いにチャレンジ】

子どもたちが折れた色鉛筆を見つけたことがありました。見つけた子が周囲の子に「だれがやったの?」と聞きましたが、みんな「やってないよ」と言っていました。困った子どもたちは大人に「どうすればいい?」と聞くので、朝の集まりでみんなに話してみることを提案しました。

朝の集まりが始まると緊張しながらみんなの前に立ち「これおれてました。だれがやったの?」と問いかけてくれました。みんなも「やってない」と答えてくれましたが、解決に向かうのは難しそうだったので大人が「どうしたらいいと思う?」と聞いてみました。何人かの子が「だいじにする」「けずる」と考えて答えてくれました。(これはみんなで話し合うチャンスかもしれない。結論にこだわらず経験できたらいいな)と思い、「少し待ってるからみんなで色鉛筆をどうするか相談してみて」と伝えて最初に話してくれた子に司会をお願いし、近くに座って見守ることにしました。

司会の子が「てをあげてきめる」と言うと、みんなが「なにをきめるの」「だれがやったの?てをあげて」と他の子も自由に話し始めました。司会の子が「みんなきいてくれない」と言うので、「手を挙げて話してって言うてみる?」と提案してみました。するとみんなのところに戻り「てをあげてからしゃべってください」と伝えていました。他の子も「はい」と言って意見がある子は手を挙げていました。司会の子が「〇〇くん」と名前を呼び、呼ばれた子は「やったひとにやらないでっていう」次は「〇〇ちゃん」と呼ぶと「ちからがつよいひとじゃない?」と意見を言い、みんな手を挙げて順番に意見を発表し、司会の子は名前を呼びながら話を聞いていました。意見はまとまりませんが、司会の子も意欲的に名前を呼んで他の子も安心して意見を伝えていて、いい雰囲気だなと思いました。そろそろ疲れるかなと思い、「ひとつ方法を選んでみるのはどうですか?」と聞くと最後に出た「色鉛筆の使い方を紙に書いて貼っておく」という意見がいいと思うという声が出て、その方法を実践してみることにになりました。園生活の中で困りごとを大人が解決するのは簡単ですが、正しさにこだわらずに意見を出し合い、自分たちで考え決めることは、自己肯定感や話して解決する気持ちにつながるように感じました。今度は楽しい話もみんなでできたら嬉しいです。

お知らせ・おねがい

・引き続きくじら組の子どもたちが、空き箱で工作を楽しんでいます。ご家庭で必要ない空き箱がありましたら、クラスのドアに貼ってある紙を参考にお持ちいただくとありがたいです。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。箱を入れる box は部屋の中にあります。

・保育園に不要な物(個人の玩具など)を持ってくると、破損や紛失の可能性があります。今一度ご家庭でリュックの中身の確認をお願いいたします。



9月の予定

1日	引き渡し訓練
3日	歯科検診
8日	身体測定